

## 当院における血小板凝集能検査の測定機器変更による効果について

◎平山 すみれ<sup>1)</sup>、大塚 美和<sup>1)</sup>、高坂 仁美<sup>1)</sup>、村松 すみれ<sup>1)</sup>  
掛川市袋井市病院企業団 中東遠総合医療センター<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

血小板凝集能検査は血小板機能低下の評価や、抗血小板薬の薬効評価を目的に施行される検査である。当院ではヘマトレーサー804（DS メディカル社）を用いて検査を実施して

いたが、凝固検査で使用している CS5100

（Sysmex 社）に測定機器を変更することとなった。

今回、機器変更経緯についてと運用開始後の変化について報告する。

## 【機器変更経緯】

当院は現在 ISO15189 取得を目指している。ISO 15189 では測定機器の様々な管理が必要となる為、管理対象の見直しを実施した。ヘマトレーサー804 は測定方法が煩雑であり、試薬添加等のピペット操作も多い。結果のばらつきを防ぐ為、技師 2 人による W チェックをする手間もあった。Sysmex 社より血小板凝集能検査試薬が販売されたこともあり、ヘマトレーサー804 を廃止し、CS5100 での運用を検討した。当院では、最も依頼

が多い脳神経外科の医師に測定機器や結果報告方法が変更になる事の上承を得るなどして昨年末より運用開始した。

## 【結果】

変更にあたり、複数検体測定を実施し臨床背景と結果に矛盾がないかを確認した。ヘマトレーサー804 と比較し、技師の操作手順が減ったことで業務負担が軽減した事が最も大きい効果ではないかと考える。ヘマトレーサー804 では検体セットから試薬添加操作、結果出力までを技師が行っていたが、CS5100 は検体をラックに流すだけで、それ以降の試薬添加から結果反映まで機器が実施する。技師は検体をかけてしまえば、結果が反映されるまで他の業務に取り組むことが可能になった。また、技師のピペット操作により結果が変わる心配もない為、検査の W チェックを省く事が可能となり、報告時間短縮にも繋がった。

## 【まとめ】

CS5100 での運用は開始したばかりである。今後様々な課題がでることも考えられるが、より良い運用となるよう引き続き検討していきたい。連絡先：0537-21-5555